

復興・再生戦略協議懇談会（1月24日）で戴いたご意見まとめ

参考資料9-1-1

項目		内容
①	予算重点化と「仕組み」見直しの一体的取組の必要性	(1) 「仕組み」見直しは課題達成の阻害要因を解決するものであり、アクションプランを補完するもの。したがって、アクションプランと「仕組み」見直しを切り離して考えることは出来ず、一体的に進めないと意味がない。
		(2) 「仕組み」見直しに関して議論し、とりまとめた成果は、今後のアクションプラン検討に反映されるべき。
		(3) 「仕組み」とは戦略協議会（あるいはCSTP、専調）が施策推進のガバナンスを利かせることとすれば、「仕組み」とアクションプランは1対1のもの。
②	技術の社会実装におけるソフトサイエンスの重要性	(1) 早期の社会実装のためにはソフトサイエンスが重要であるため、ソフトサイエンスの重点化とその上での省庁連携を二段構えで議論すべき。復興においては地域力が重要であり、その中身をサイエンスとして詰めていくことも考えられる。
		(2) 危機管理へのソフトサイエンスの利用は重要。例えば、早期復興に必要な事項の抽出のための共通フォーマットの作成や国全体のBCP作成は重要なテーマだが、これらはソフトサイエンスを必要とする分野。
		(3) 復興支援学としてまとめられるような内容について、ソフトサイエンスに関連する施策を策定し、PDCAも回しながら盛り込んでいくことも考えられる。
③	研究開発を復興・再生につなげるプロセス	(1) 平成25年度アクションプランが平成26年度にどのように活かされるのか？スピード感をもって施策をどのように具体化するのか？PDCAはどのように実施するか？など具体性のある議論をしたい。
		(2) 成果の実施までに一定の時間を要する研究開発を、緊急性の高い復興・再生にどのように連携させるかが重要。
④	開発成果の利用者の立場に立った視点	(1) アクションプランを検討する上では、開発成果の利用者の立場で考えるべき。PDCAのCheckにおいても、その視点で指標を検討すべき。
		(2) 復興・再生がカバーする幅広い範囲の中で、何を対象とするかクリアにして、利用者との交流の場の持ち方など具体的な議論が必要。
⑤	「仕組み」見直しなど着実な社会実装のための取組	(1) 科学技術関係予算の重点化対象の施策と科学技術関係予算以外の施策との連動を促すことの具体的な考え方を明確にする必要がある。問題の提起のみで良いのか？解決策まで提示すべきか？中身を具体的に考えるべき。
		(2) ガバナンスを利かせる観点から「仕組み」を考えれば、Go/Stop判断をする権利を持つとか、グランドデザインを考え実施内容を決定する権限を持つことが望ましい。
		(3) 「仕組み」見直しでは運用的な面に限らず組織運営、体制など制度的な面まで踏み込んで議論しないと効果が上がらない可能性がある。
⑥	産業競争力強化の視点	(1) 産業競争力強化と科学技術の連携をどのように考えるべきか？例えば、以下のような切り口が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 復興・再生の具体的な行政施策との連携強化 ・ 東北における、日本の産業再生につながるモデル作り ・ 東北における、日本の危機管理体制強化につながるモデル作り